

14時30分解禁

平成27年2月 全国百貨店売上高概況

平成27年3月19日

I. 概況

1. 売上高総額	4,457億円余
2. 前年同月比	1.1% (店舗数調整後／11か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	83社 240店 (平成27年1月対比±0店)
4. 総店舗面積	6,091,117m ² (前年同月比：-2.8%)
5. 総従業員数	77,790人 (前年同月比：-2.8%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	7-9月 -1.3%、8-10月 -1.1%、9-11月 -1.3%、 10-12月 -1.6%、11-1月 -1.8%、12-2月 -1.3%

[参考] 平成26年2月の売上高増減率は3.0% (店舗数調整後)

【2月売上の特徴】

2月は初旬から北海道を中心に暴風雪に見舞われるなど、地域によって天候のバラつきがあったものの、中旬以降、好天に恵まれ気温も上昇したことから春物商材が順調に推移した。また、株高による消費マインドの向上や前年との天候差、歳時記催事(バレンタイン)及び春節休暇による外国人売上高の底上げなどにより、昨年4月の消費税率引き上げ後初めて、既存店ベース(+1.1%/店舗数調整後)、全店ベース(+0.6%/店舗数調整前)ともにプラスを確保した。

地区別では、前年高実績の反動から伸び悩む地域もあったが、東京(+5.3%/4か月連続プラス)、大阪(+0.5%/8か月連続プラス)が前年を確保し、札幌(+5.0%/3か月ぶりプラス)も高い伸びを見せるなど10都市計は1.6%増を確保した。また、関東(+1.5%)が11か月ぶりのプラスとなつたことなどから地方都市もほぼ前年を確保し、両地区の差は1.6ポイントに縮まった。

商品別には、売上構成比の高い衣料品(+2.3%/5か月ぶりプラス)、食料品(+1.2%/11か月ぶりプラス)、雑貨(+3.4%/4か月連続プラス)が好調で、昨年高伸の反動が出た家庭用品(-8.5%)と、身のまわり品(-1.9%)の減をカバーした。なお、細分類では、紳士服(+3.7%)、婦人服(+2.8%)、子供服(+5.8%)、化粧品(+7.7%)などがプラスとなり全体数値を下支えしたのが大きい。

訪日外国人売上高(+23.5.8%)については、春節休暇による中華圏からの観光客増に向けた事前準備が奏功し、統計開始以来単月として初めて150億円台を超える実績を記録した。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「2月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇シベリア高気圧の張り出しが弱く北日本では気温の高い日が続いた。他の地方でも月平均気温は平年並みだった。
日本海側の降雪量は統計開始以降最も少なかったが、北日本では3度にわたり北海道を中心に暴風雪となった。

(2) 営業日数増減 27.6日 (前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (ノ ±0日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数139店舗)

①増加した：64店、②変化なし：33店、③減少した：42店

(5) 2月歳時記(節分、バレンタイン)の売上 (同上／有効回答数111店舗)

①増加した：59店、②変化なし：36店、③減少した：16店

NEWS LETTER

日本百貨店協会

全国百貨店 売上高速報 2015年02月

第1表 地地区別売上高

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	※店舗数調整後 ()が調整前	
			対前年増減(-)率 (%)	※
全 国	445,750,744	100.0	1.1 (0.6)	
10都市	298,809,199	67.0	1.6 (1.4)	
札幌	11,956,402	2.7	5.0	
仙台	5,947,716	1.3	2.3	
東京	117,405,580	26.3	5.3	
横浜	25,807,990	5.8	1.4	
名古屋	27,957,294	6.3	-2.3	
京都	17,328,778	3.9	-8.3 (-10.9)	
大阪	56,494,312	12.7	0.5	
神戸	11,560,902	2.6	-0.5	
広島	9,431,824	2.1	-0.5	
福岡	14,918,401	3.3	-0.9	
10都市以外の地区	146,941,545	33.0	0.0 (-1.0)	
北海道	2,379,894	0.5	-3.9	
東北	7,584,710	1.7	0.7	
関東	66,318,678	14.9	1.5 (1.7)	
中部	11,165,519	2.5	-4.4	
近畿	19,479,831	4.4	-2.8	
中国	10,183,047	2.3	-2.8	
四国	7,269,917	1.6	0.0 (-10.9)	
九州	22,559,949	5.1	1.7 (-1.2)	

第2表 商品別売上高

商品別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)	※
総額	445,750,744	100.0	1.1 (0.6)	
紳士服・洋品	27,251,484	6.1	3.7 (3.4)	
婦人服・洋品	90,894,315	20.4	2.8 (2.3)	
子供服・洋品	10,606,211	2.4	5.8 (5.5)	
その他衣料品	10,204,974	2.3	-7.3 (-7.7)	
衣料品	138,956,984	31.2	2.3 (1.9)	
身のまわり品	55,698,683	12.5	-1.9 (-2.3)	
化粧品	29,380,242	6.6	7.7 (7.6)	
美術・宝飾・貴金属	24,947,678	5.6	-1.1 (-1.7)	
その他雑貨	18,618,670	4.2	3.2 (2.3)	
雑貨	72,946,590	16.4	3.4 (2.9)	
家具	5,434,577	1.2	-24.4 (-24.9)	
家電	1,798,199	0.4	0.2 (0.1)	
その他家庭用品	14,224,606	3.2	-1.6 (-2.0)	
家庭用品	21,457,382	4.8	-8.5 (-8.9)	
生鮮食品	22,505,511	5.0	-3.3 (-4.2)	
菓子	49,176,142	11.0	2.3 (1.9)	
惣菜	25,621,646	5.7	2.9 (2.5)	
その他食料品	32,539,448	7.3	1.4 (0.8)	
食料品	129,842,747	29.1	1.2 (0.7)	
食堂喫茶	12,503,897	2.8	4.1 (3.9)	
サービス	4,944,203	1.1	1.3 (1.3)	
その他	9,400,258	2.1	0.6 (0.0)	
商品券	9,111,991	2.0	-2.9 (-3.0)	

(注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

II. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 1. 6 % (店舗数調整後／3か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | 0. 0 % (店舗数調整後／11か月連続マイナス・前年並) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	1. 6	1. 1	3か月ぶりプラス
札幌	5. 0	0. 1	3か月ぶりプラス
仙台	2. 3	0. 0	11か月ぶりプラス
東京	5. 3	1. 3	4か月連続プラス
横浜	1. 4	0. 1	3か月ぶりプラス
名古屋	-2. 3	-0. 1	3か月連続マイナス
京都	-8. 3	-0. 4	11か月連続マイナス
大阪	0. 5	0. 1	8か月連続プラス
神戸	-0. 5	0. 0	6か月連続マイナス
広島	-0. 5	0. 0	11か月連続マイナス
福岡	-0. 9	0. 0	3か月連続マイナス
10都市以外の地区	-0. 0	0. 0	11か月連続マイナス
北海道	-3. 9	0. 0	11か月連続マイナス*
東北	0. 7	0. 0	11か月ぶりプラス*
関東	1. 5	0. 2	11か月ぶりプラス
中部	-4. 4	-0. 1	5か月連続マイナス
近畿	-2. 8	-0. 1	11か月連続マイナス
中国	-2. 8	-0. 1	11か月連続マイナス*
四国	+0. 0	0. 0	3か月ぶりプラス
九州	1. 7	0. 1	11か月ぶりプラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

III. 商品別の動き

主要5品目では、雑貨が4か月連続のプラス、衣料品が5か月ぶり、食料品が11か月ぶりのプラスとなった。また、身のまわり品が3か月連続、家庭用品が11か月連続のマイナスとなった。化粧品が8か月連続、菓子が2か月連続、家電が4か月ぶり、紳士服・洋品、婦人服・洋品が5か月ぶり、子供服・洋品、惣菜、その他雑貨が6か月ぶり、その他食料品が11か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	1.1	—	11か月ぶりプラス
紳士服・洋品	3.7	0.2	5か月ぶりプラス
婦人服・洋品	2.8	0.6	5か月ぶりプラス
子供服・洋品	5.8	0.1	6か月ぶりプラス
その他衣料品	-7.3	-0.2	5か月連続マイナス
衣料品	2.3	0.7	5か月ぶりプラス
身のまわり品	-1.9	-0.2	3か月連続マイナス
化粧品	7.7	0.5	8か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-1.1	-0.1	3か月ぶりマイナス
その他雑貨	3.2	0.1	6か月ぶりプラス*
雑貨	3.4	0.5	4か月連続プラス
家具	-24.4	-0.4	11か月連続マイナス
家電	0.2	0.0	4か月ぶりプラス
その他家庭用品	-1.6	-0.1	6か月連続マイナス
家庭用品	-8.5	-0.5	11か月連続マイナス
生鮮食品	-3.3	-0.2	11か月連続マイナス*
菓子	2.3	0.3	2か月連続プラス*
惣菜	2.9	0.2	6か月ぶりプラス*
その他食料品	1.4	0.1	11か月ぶりプラス*
食料品	1.2	0.3	11か月ぶりプラス
食堂喫茶	4.1	0.1	3か月ぶりプラス
サービス	1.3	0.0	3か月ぶりプラス
その他	0.6	0.0	2か月連続プラス
商品券	-2.9	-0.1	48か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品について2006年1月から細分化した。

平成27年2月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年3月19日

I. 概 况

1. 売上高総額	1, 174億円余
2. 前年同月比	5.3% (4か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭5.4%(87.3%)：非店頭4.0%(12.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年1月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956m ² (前年同月比：-2.4%)
6. 総従業員数	18,711人 (前年同月比：-0.8%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	7-9月 +0.0%、8-10月 0.5%、9-11月 0.2%、 10-12月 0.2%、11-1月 0.4%、12-2月 1.7%

[参考] 平成26年2月の売上高増減率は3.9% (店舗数調整後)

【2月売上の特徴】

- (1) 2月の入店客数は、天候条件の差(前年大雪)、バレンタイン催事の活況及び春節休暇(18日～24日)による訪日外国人観光客増などから5%強のプラスとなった。
- (2) 商品別では、衣料品(+8.2%)、食料品(+2.8%)、雑貨(+5.1%)、身のまわり品(+6.1%)、家庭用品(+0.8%)の主要5品目が全てプラスとなったことで、昨年の駆け込み需要による高実績を上回り4か月連続のプラス(5.3%)を記録した。
- (3) 個別商材では、下旬からの気温上昇を受け紳士服(+10.9%)、婦人服(+8.8%)が好調で、春色を基調としたスプリングコートやニット、カットソーなどに人気が集まった。なお、バレンタイン商戦は催事の大型化(展開時期、面積、取扱ブランドの拡充)や、付加価値志向の高まりを受けた客单価アップなどにより、各店ともに売り上げを大きく伸長させた。
- (4) 昨年の駆け込み需要による反動から、美術・宝飾・貴金属はマイナス(-5.2%)に転じたが、引き続き高級時計などを中心に動きは良く、一昨年比較では23.8%増と高い実績を残している。また、化粧品(+20.5%)は昨年10月からの免税制度改正による増勢に加え、春節効果が上乗せされたものと推察される。
- (5) 3月の商況(16日段階)は、早期投入した春物商材が高めの気温の影響から堅調なこと、人気催事の前倒しや開催回数の増加など各店施策が奏功していることなどから、前年実績を超える店舗も見受けられるなど、全体では10%程度のマイナスにとどまっている。

【要因】

- (1) 営業日数増減 27.6日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数19店舗)
①増加した：14店、②変化なし：2店、③減少した：3店
- (3) 2月歳時記(節分、バレンタイン)の売上 (同上／有効回答数12店舗)
①増加した：5店、②変化なし：5店、③減少した：2店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年02月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総額	117,405,580	100.0	5.3
紳士服・洋品	8,503,008	7.2	10.9
婦人服・洋品	21,101,178	18.0	8.8
子供服・洋品	2,606,127	2.2	5.8
その他衣料品	2,306,613	2.0	-2.7
衣料品	34,516,926	29.4	8.2
身のまわり品	16,993,076	14.5	6.1
化粧品	8,262,320	7.0	20.5
美術・宝飾・貴金属	7,418,564	6.3	-5.2
その他雑貨	5,904,174	5.0	0.7
雑貨	21,585,058	18.4	5.1
家 具	1,847,411	1.6	-8.5
家 電	1,282,637	1.1	12.1
その他家庭用品	4,213,683	3.6	2.2
家庭用品	7,343,731	6.3	0.8
生鮮食品	4,124,085	3.5	-1.7
菓子	10,362,189	8.8	3.1
惣菜	5,772,444	4.9	3.6
その他食料品	8,536,350	7.3	4.2
食料品	28,795,068	24.5	2.8
食堂喫茶	2,794,809	2.4	7.9
サービス	2,157,353	1.8	1.0
その他	3,219,559	2.7	4.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商品券	1,894,034 千円	1.3
従業員数	18,711 人	-0.8
店舗面積	854,956 m ²	-2.4

営業日数	27.6 日	前年	27.6 日
------	--------	----	--------

II. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が8か月連続、雑貨が5か月連続、食料品が2か月連続、衣料品が2か月ぶり、家庭用品が4か月ぶりのプラスと全品目がプラスとなった。紳士服・洋品、化粧品が8か月連続、家電、惣菜が3か月連続、菓子、その他食料品が2か月連続、婦人服・洋品が2か月ぶり、子供服・洋品、その他家庭用品が3か月ぶり、その他雑貨が6か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	5.3	—	4か月連続プラス
紳士服・洋品	10.9	0.8	8か月連続プラス
婦人服・洋品	8.8	1.5	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	5.8	0.1	3か月ぶりプラス
その他衣料品	-2.7	-0.1	6か月連続マイナス
衣料品	8.2	2.4	2か月ぶりプラス
身のまわり品	6.1	0.9	8か月連続プラス
化粧品	20.5	1.3	8か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-5.2	-0.4	4か月ぶりマイナス*
その他雑貨	0.7	0.0	6か月ぶりプラス*
雑貨	5.1	0.9	5か月連続プラス
家具	-8.5	-0.2	11か月連続マイナス
家電	12.1	0.1	3か月連続プラス
その他家庭用品	2.2	0.1	3か月ぶりプラス
家庭用品	0.8	0.0	4か月ぶりプラス
生鮮食品	-1.7	-0.1	11か月連続マイナス*
菓子	3.1	0.3	2か月連続プラス*
惣菜	3.6	0.2	3か月連続プラス*
その他食料品	4.2	0.3	2か月連続プラス*
食料品	2.8	0.7	2か月連続プラス
食堂喫茶	7.9	0.2	3か月ぶりプラス
サービス	1.0	0.0	4か月連続プラス
その他	4.7	0.1	2か月連続プラス
商品券	1.3	0.0	4か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品について、2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・闘・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>